

ファッション・マーチャンダイジングへの 統計処理的アプローチ

佐々木 文 衛

「ファッションのOR」を特集するということで、筆者にはデパートの分野でなにを書けという。たぶん「ファッション」といえばデパートが日常重点的にとりあつかう領域とされているし、そのデパートの経営研究室といえば、「ファッションとOR」などはこれまた日常の研究テーマの1つであるにちがいないとみられたのであろうか。残念ながら現実はそのなかに高級ではないのであるが……。

それに、いまさらこんなことをいうと編集部からたいへんなお叱りを受けるかもしれないが、“デパートの分野でなに”とは、それこそなんなのか、具体的になにが求められたのか、正直のところ筆者にはいまだに不明なのである。

仕方がないので筆者は貧しい頭をひねって考えてみた。「デパートのOR」ということであれば、筆者のようなORの素人でも顔なじみの問題はワンサとある。売場カウンターや試着室の「待ち合わせ問題」、販売員の売場「配置問題」、商品の仕入と「在庫の問題」、配送センターと「輸送問題」あるいは「意思決定の問題」、「市場戦略の問題」などなど、これらは一般の企業の場合と異なるところがない。ところが、ことが「デパートにおけるファッションのOR」ということになるのとたんに頭が重くなるのである。これは1つには「ファッション」の概念が非常にあいまいであるということに起因するのだろう。筆者の周辺でも「フ

ァッション」という概念の種類は、これを口にする人の数だけあるといっても過言ではない。一方に常識的な「服飾の流行」という概念があるかと思えば、他方ではなんと「生活そのもの」であるといいたす。両者の間は実に多種多様、しかも後者を主張する者でも都合次第では自由自在に前者の概念でファッションを語る。まことに融通無碍である。こうなると、筆者のようなファッションの素人が理解するには、ことはあまりにも高度に過ぎて手に負えない。いつまでたっても筆者の前に問題の「顔」が浮んでこないのは当然といえるだろう。

そこで筆者はこのような概念にこだわることはやめにして、標記のようにいっそ思いきって大上段に振りかぶることにしたのである。とはいえ、このもっともらしいテーマに対して、単純なクイズばりの中身にはいささか気がひけないこともないのであるが……。

紳士服マーチャンダイジングのための標準体型設定

デパートにおける既製紳士服のマーチャンダイジングにとって、「標準体型」の設定は欠かすことのできない重要な基礎作業の1つである。この設定のいかんによって品揃えの重点が左右され、その適否で客の満足と店の利益が左右されるからである。

表 1 紳士服標準体型表 (30歳以上)

号数	身長 (cm)	胸囲 (cm)	胴 囲 (cm)																												
			70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	
5号	170以上 175未満	102																													
		99																													
		96																													
		93																													
		90																													
4号	165以上 170未満	87																													
		99																													
		96																													
		93																													
		90																													
3号	160以上 165未満	87																													
		84																													
		99																													
		96																													
		93																													

ところがこのところ、品揃えに対して客の需要の実態はあまりにもかけ離れすぎている、という反省が現場では生まれてきている。客の需要頻度と商品在庫量がズレて、頻度の高いところに十分な商品量が準備されていないために、客は不満をもち、売場のイメージは損なわれ、売り逃しによる損失は大きいという、無視できない現実があるからである。

これは標準体型の適否の問題を提起している。そこで本稿では「最適標準体型」を求めるための工夫をしてみようというわけである。

まず売場が現在基準としている標準体型のサイズ組み合わせを確認しておくために、30歳以上男子用を例にとって、他の大手既製紳士服メーカーのそれとあわせて表示してみよう。

表1がそれである。表中■は売場が独自に、そして□はメーカーがそれぞれ設けた標準体型である。身長ランクごとに号数をきめ、各号にそれぞれY体・A体・AB体・B体の4種類の標準体型を設定してある。たとえば4号のA体はA4と名づけ、身長165cm、胸囲90cm、胴囲76cmのサイズと定められている。

メーカーの設けた標準体型はともかくとして、売場(店)がもつ標準体型は、これを中心にして品揃えをするためのものであるから、これが需要の実態に合わないときは当然標準体型を設定しな

す必要があるし、この訂正は売場(店)単独で可能なことである。

それでは需要の実態はどうか。

いまこれをする便法として、工業技術院の昭和50年度調査結果を用いてみる。表2は同院が30歳以上男子1,000名について実測した結果の1部である。

表中、身長はたとえば165cmは165cm以上170cm未満、胸囲はたとえば90cmは90cm以上93cm未満、胴囲はたとえば70cmは70cm以上71cm未満という階級を意味しているので、級代表は身長・胸囲・胴囲それぞれ2.5cm、1.5cm、0.5cmを加えてよんでいただきたい。

この分布表をみてただちに気づくことは、どの身長階級についてみても、胴囲の分布のひろがりには胸囲のある階級を境にして、はっきり2層にわかれているということである。この分割線はどの身長階級にも共通していて胸囲階級87cmと90cmとの間にある。そこで便宜上この分割線の上下をそれぞれ「上層」、「下層」と名づけておく。(表2の身長170cmの層ではそれぞれの数は72人と88人)

一方、表2を使って身長階級別の胴囲分布をグラフにすると図1のようになっていて、この分布に1つの規則性をよみとることは非常にむずかしい。ただ1つ共通してみられることは、どの分布も右端(胴囲の大きい側)部分が低く這うように流

れていて、あたかも対数正規分布を思わせる形になっていることである。これは上層部だけのグラフにおいても同様であって、見逃すことのできない特徴であるように思える。

いずれにしても、全体を1つの分布型とみることはできないので、せめてこの右端部分を利用することで手がかりをつかもうというのが筆者の発想である。

この部分は上層の胴囲分布のうえで、累加相対度数のはば60% (正確にはではないが) 以上にあたっている。そこで便宜上この数字を用いて上層部の胴囲分布を2分すると

- ① 身長 170 cmでは、 $72 \times 40\% = 28.8$ であるから胴囲88cm以上と87cm以下に
- ② 身長 165 cmでは、 $135 \times 40\% = 54$ であるから胴囲86cm以上と85cm以下に
- ③ 身長 160 cmでは、 $76 \times 40\% = 30.4$ であるから胴囲85cm以上と84cm以下に

わけることができるのであるが、ここで視覚的に分布の形を考慮して

- ①' 身長 170 cmでは胴囲87cm以上と86cm以下

②' 身長 165 cmでは②のまま

③' 身長 160 cmでは③のまま
と修正して2分割することとする。

さらにこの分割は、表2中に点線で示すように下層にもそのまま適用する。

このようにして上層と下層を含めて2分割された胴囲分布の、上位部分を「B体」部として分離し、つぎに胴囲分布上の残り下位部分について考えてみる。

さきに触れたところと同様に、下位部分についてもこれを1つの規則的な分布とはみられないのであるが、しかし各身長階級とも分布の全体が3つの小分布の組み合わせになっているようにみえる点で共通している。(もちろんどの小分布も平均・分散ともまちまちであるが)

ここで小分布の型や平均や分散はいっさい無視することとして、各身長階級ごとに下位部分の胴囲の累加度数を3等分すると

- ① 身長 170 cmでは $(160 - 32) \div 3 = 42.6$ であるから、胴囲73cmと74cmの間および77cmと78cmの間

表 2 体型サイズ別度数表 (30歳以上男子 1,000 人中) 単位: 人

身長 (cm)	胸 囲 (cm)	胴 囲 (cm)																																																
		60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100								
170	102																																																	
	99																																																	
	96																																																	
	93																																																	
	90																																																	
	87																																																	
	84																																																	
81																																																		
165	102																																																	
	99																																																	
	96																																																	
	93																																																	
	90																																																	
	87																																																	
	84																																																	
81																																																		
160	99																																																	
	96																																																	
	93																																																	
	90																																																	
	87																																																	
	84																																																	
	81																																																	

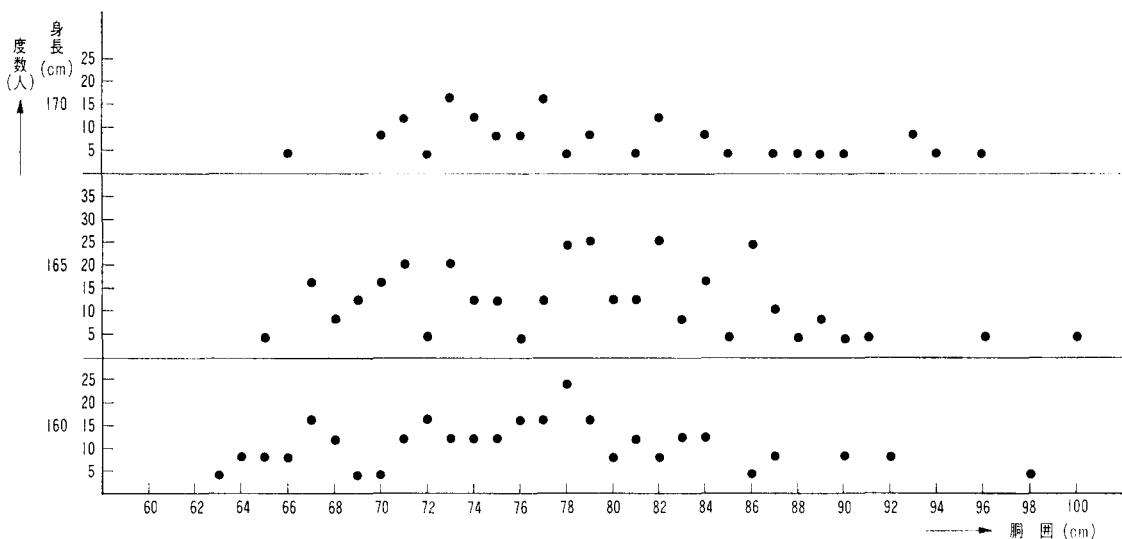


図 1 身長階級別胸囲分布

体 型	身長(cm)	胸囲(cm)	胴囲(cm)
Y 体	170	87	73
	165	81	71
	160	81	67
A 体	170	87	77
	165	87	78
	160	84	72
A B 体	170	90	82
	165	90	82
	160	87	78
B 体	170	93	93
	165	93	86
	160	93	87

表 3 標準体型サイズ表

㊦ 身長 165 cm では $(328-62) \div 3 = 88.6$ であるから、胸囲 72 cm と 73 cm の間および 78 cm と 79 cm の間

㊧ 身長 160 cm では $(284-32) \div 3 = 84$ であるから、胸囲 71 cm と 72 cm の間および 77 cm と 78 cm の間

で、それぞれ表 2 に点線で示すようにわけられる。これを胸囲の小さいほうから順次「Y 体」部、「A 体」部、「A B 体」部と名づける。

ついで各身長階級について、Y 体・A 体・A B 体・B 体各部のマトリックスごとに、各行および

各列のそれぞれのうちで、成分合計値が最大であるような行および、列を選びその行と列の交点を求める。こうして求められた各点の胸囲サイズおよび胴囲サイズをよんで、これを標準体型としてまとめたものが表 3 である。

以上が標準体型設定のための当面の工夫であるが、前述したように各身長階級ごとにさまざまな分布が組み合わされているようにみえるにもかかわらず、本稿ではこれを無視して安易な処理に終わっている。本来ならば分布の組み合わせに応じて胸囲を層別し、この層の数だけの標準体型を考える必要があるかどうかを検討しなければならないだろう。また本論中にはふれなかったことであるが、胴囲と胸囲との間に相関関係があるのかどうか、もしあるとしたとき標準体型の設定上どんな考慮が必要なのか、といった問題も未検討のまま残っているのである。

ささき・ふみえ 昭和 27 年 東京大学工学部鉱山学科卒業 松尾鉱業㈱にて採鉱課長 本社企画管理課を経て松尾鉱業所副所長 この間経営学者坂本藤良氏につく。その後深川製磁㈱専務取締役として会社の再建にあたる。

現在、伊勢丹研究所経営研究室長。